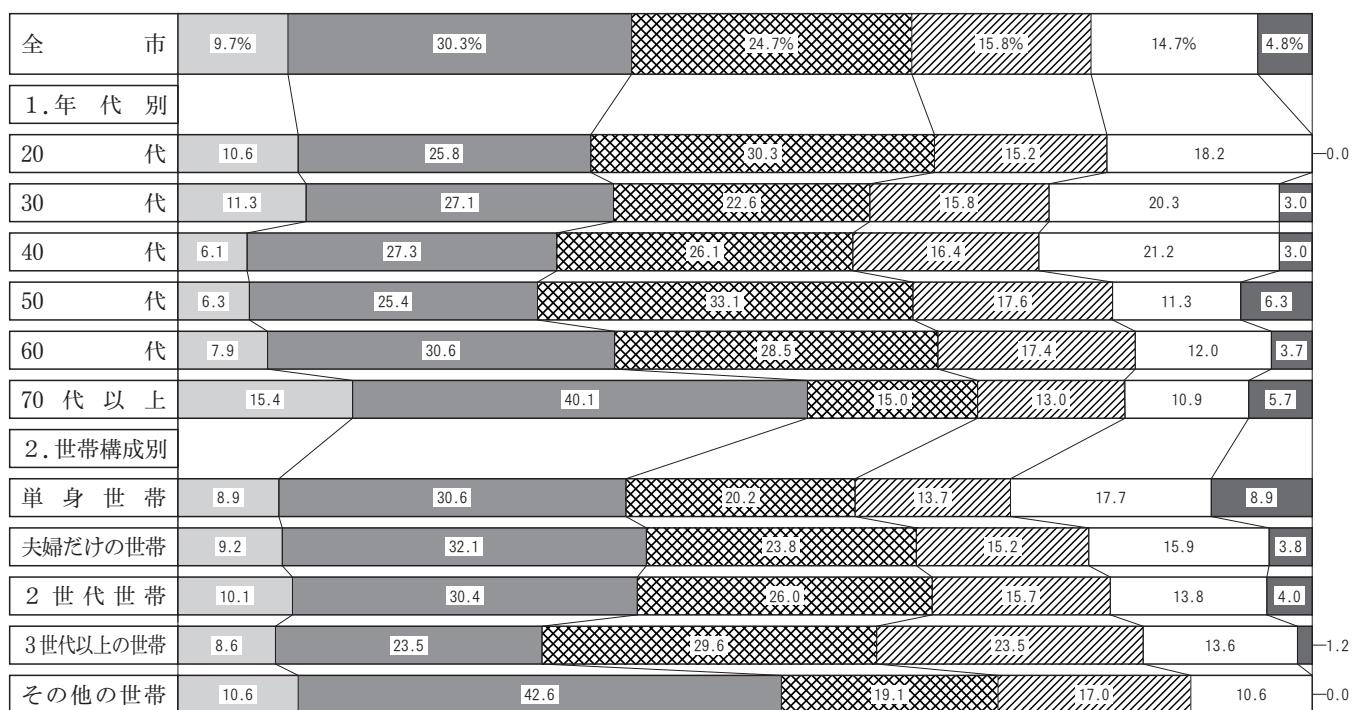
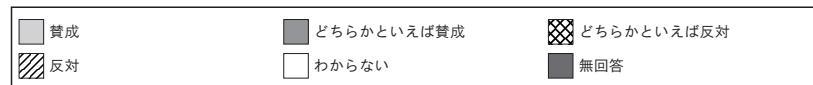
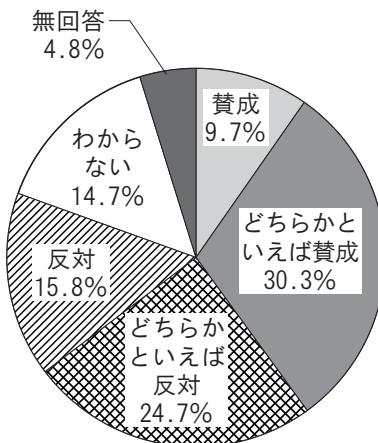


【男女共同参画について】問5～問9

問5 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方をどう思いますか。
(○は1つ)

「夫は外で働き、妻は家庭を守る」考え方

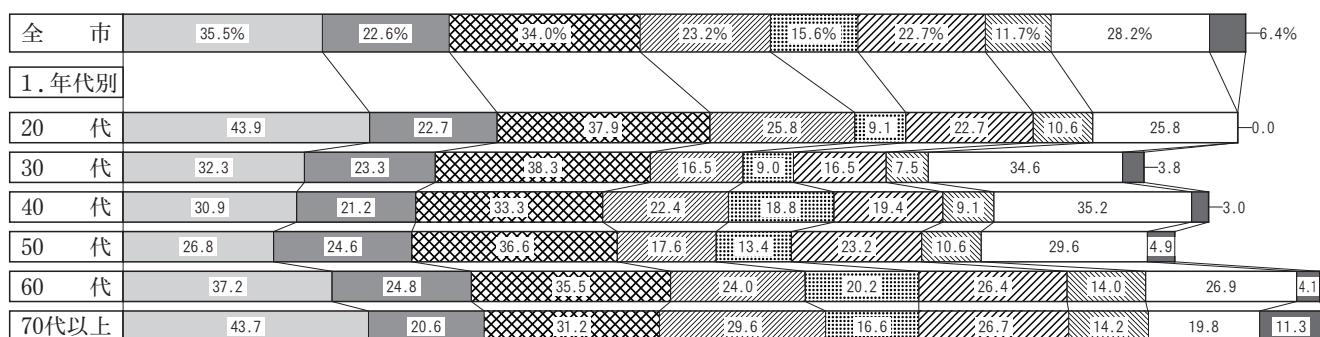
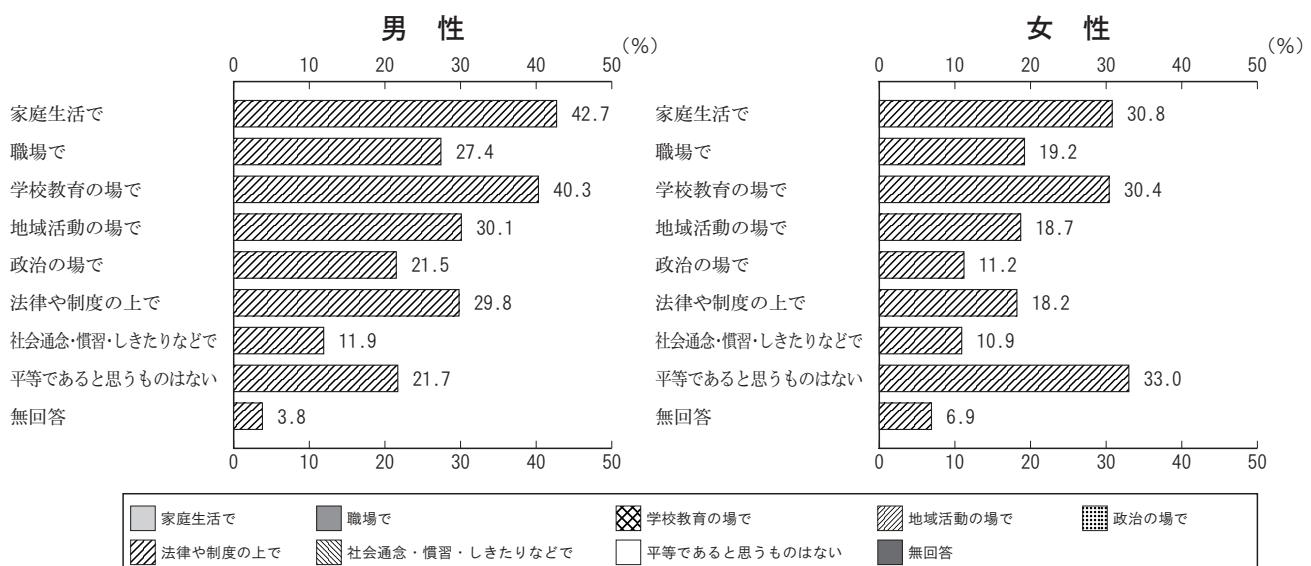
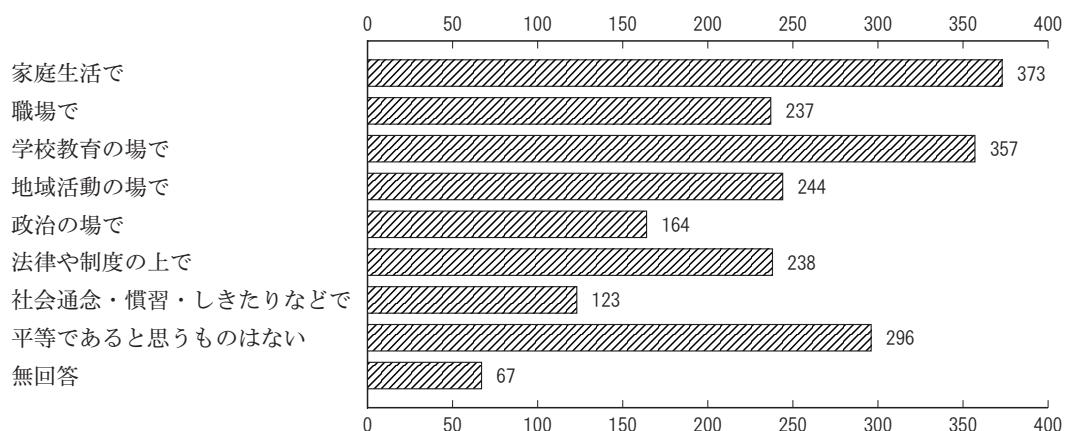


「賛成」と「反対」は、ほぼ同数

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると40.0%、「反対」「どちらかといえば反対」では40.5%で、ほぼ同数となっている。年代別では、30代は賛成派と反対派は同数、70代以上は賛成派が2倍、それ以外の年代では反対派の割合が多くなっている。世帯構成では、単身・夫婦だけの世帯で賛成派が多く、2世代・3世代以上からなる世帯では反対派が多い。これは同居親族が多いことで男女の役割ではなく家族としての役割分担が意識化されているものと考えられる。

問6 あなたは、次の場面において男女が平等であると思いますか。平等であると思うものを選んでください。(○はいくつでも)

男女平等であると思われる場面

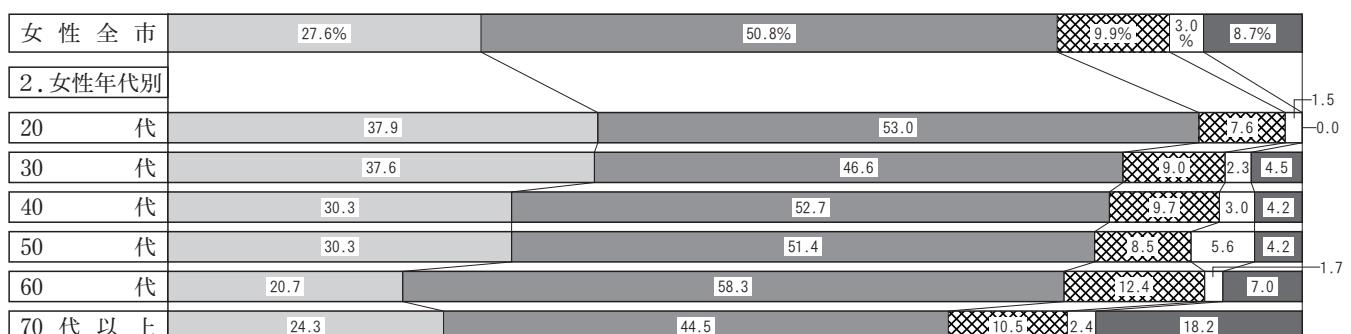
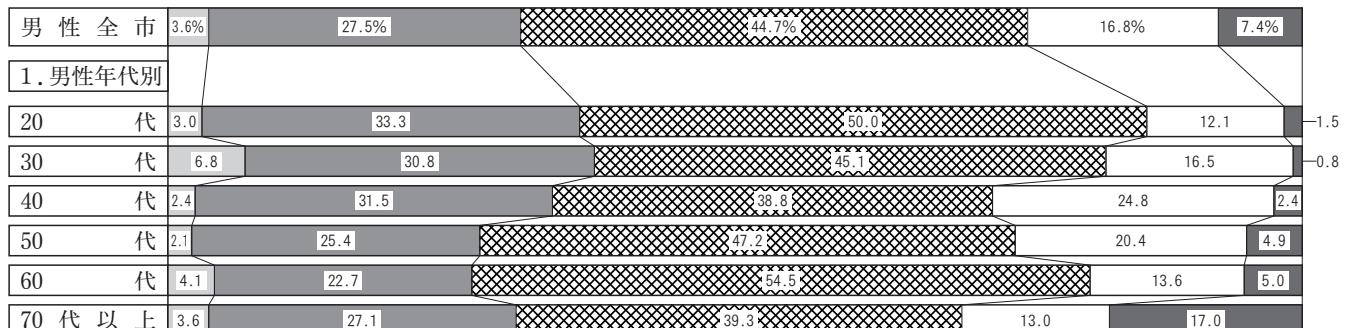
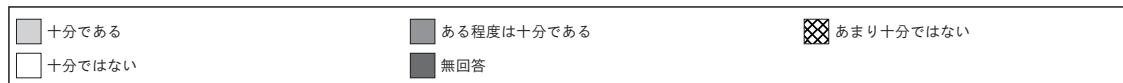
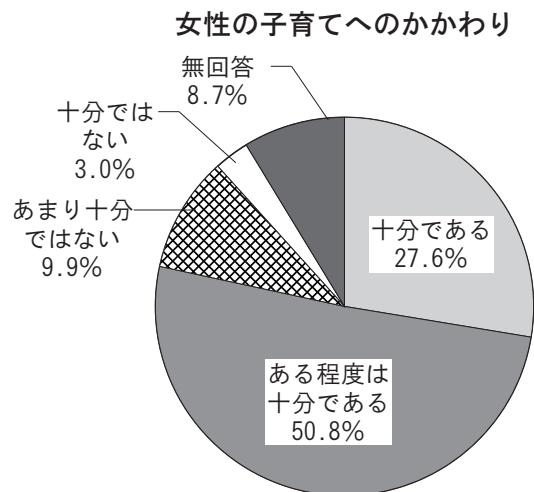
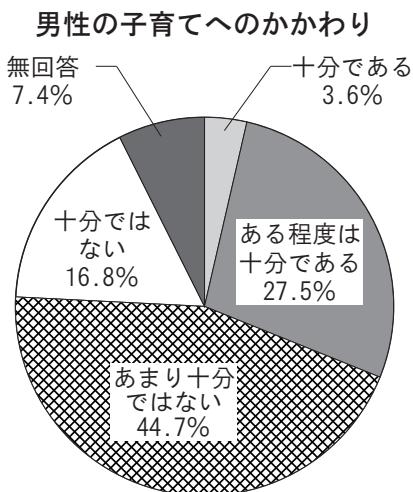


「家庭生活で」や「学校教育の場で」では男女平等であると感じている人が多い

男女ともに、男女平等であると思われる場面の1位は「家庭生活で」であり、次に「学校教育の場で」となっている。一方「政治の場で」は15.6%、「社会通念・慣習・しきたりなどで」は11.7%と、これらの分野について平等意識が高いことから、政治や社会において男女平等意識を醸成していくことが求められる。またそれぞれの場面で平等と回答した女性の割合が男性の割合より低いことから、男女平等について男女間での意識の差がうかがえる。

問7 あなたは、現在の社会の中で男性と女性のそれぞれの子育てへのかかわりは十分だと思いますか。男性、女性それについて選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

子育てへのかかわり



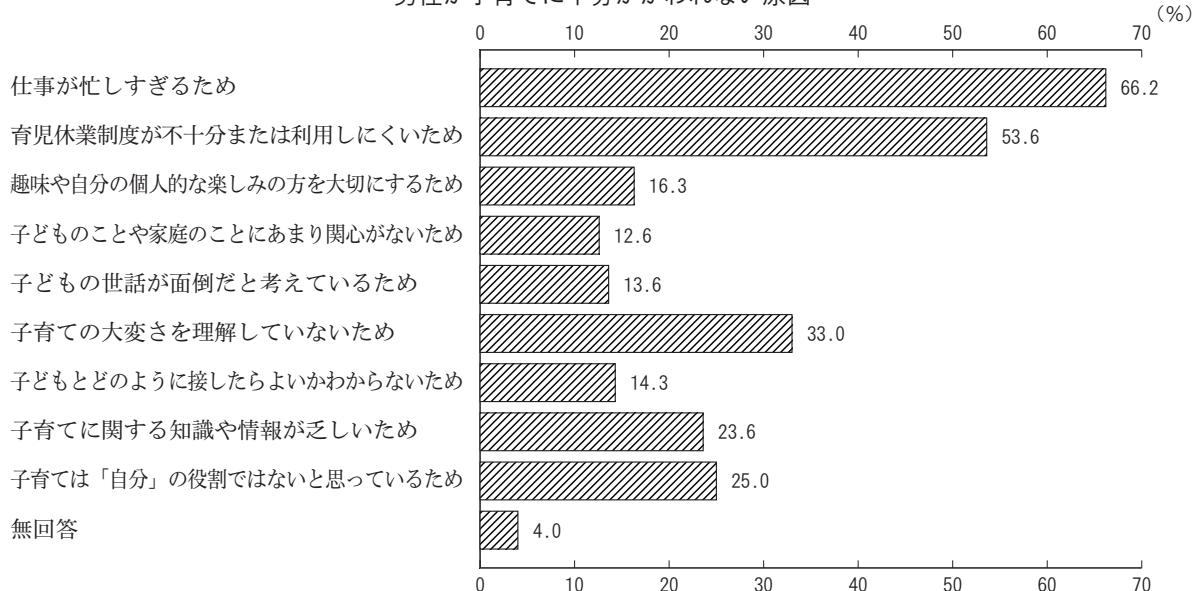
男性の子育てへのかかわりについて、6割の人が「十分でない」

男性の子育てへのかかわりについて「十分ではない」「あまり十分ではない」と感じている人が全体で61.5%となっており、「十分である」「ある程度は十分である」の約2倍となっている。年代別に見ても、男性の子育てについて全年代を通してかかわっていないと認識していることがうかがえる。一方、女性の子育てへのかかわりについては「十分である」「ある程度は十分である」を合わせると78.4%に達し女性が子育ての役割を担い、それに対して十分対応していると認識していることがうかがえる。

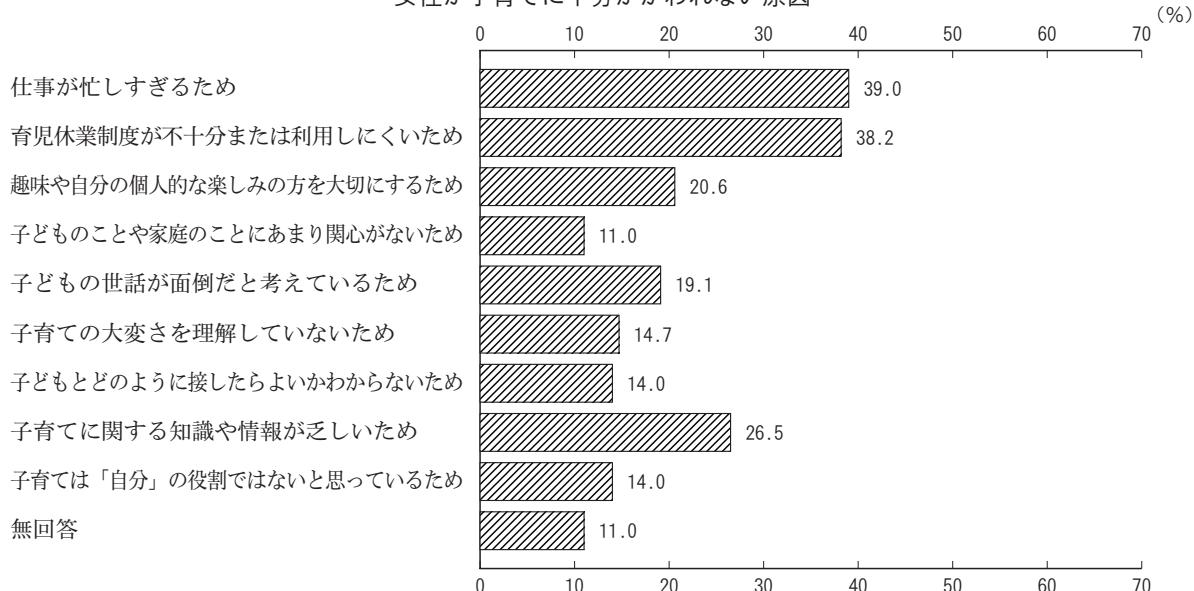
問8 問7で「あまり十分ではない」「十分ではない」とお答えいただいた方に伺います。子育てに十分かかわることができないとすれば、どのような原因があると思いますか。男性、女性のそれについて選んでください。(○はそれぞれいくつでも)

子育てに十分かかわれない原因

男性が子育てに十分かかわれない原因



女性が子育てに十分かかわれない原因

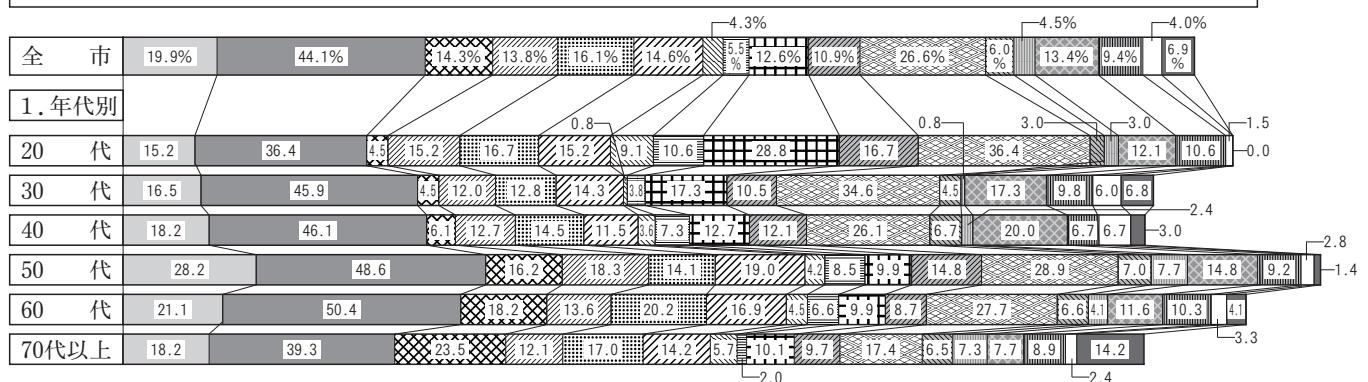
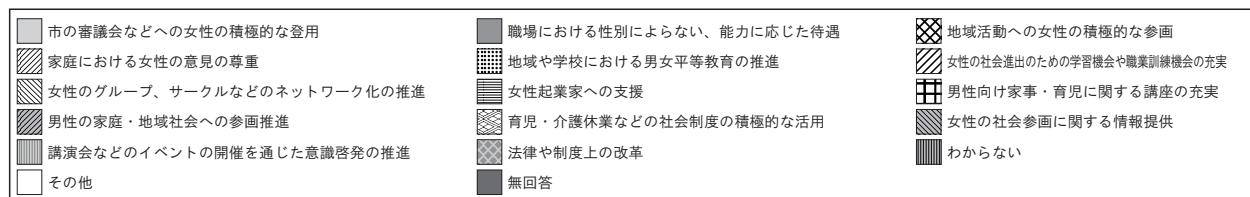
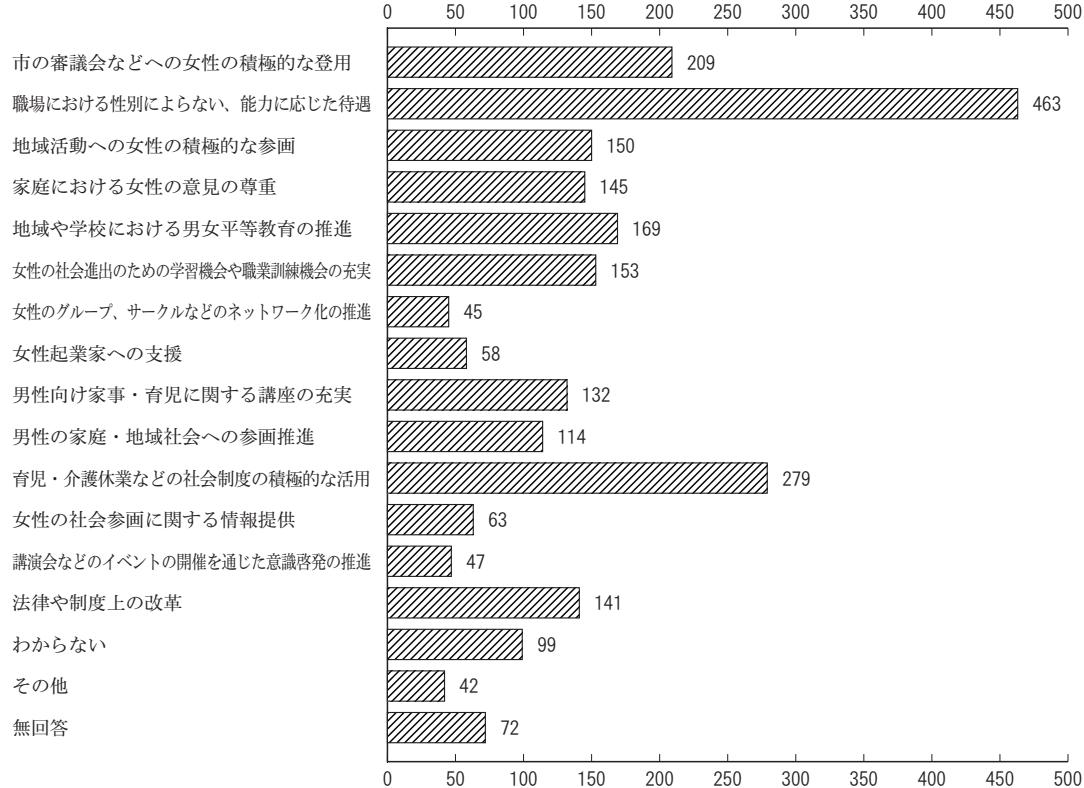


子育てに十分かかわれない原因是、男性・女性ともに「仕事が忙しすぎるため」

男性も女性も子育てに十分かかわれない原因として「仕事が忙しすぎるため」「育児休業制度が不十分または利用しにくいため」を挙げる人が多く、ともに仕事と家庭の両立の難しさを感じていると思われる。また「子育ての大変さを理解していないため」「子育ては自分の役割ではないと思っているため」という項目については男性が女性の倍近い割合を示していることから、子育ては女性の役割だとする男性の役割意識があるものと思われる。

問9 あなたは、男女共同参画社会のさらなる実現に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

男女共同参画社会の実現に必要なこと



「職場における性別によらない、能力に応じた待遇」が1位

「職場における性別によらない、能力に応じた待遇」が44.1%で最も多く、次いで「育児・介護休暇などの社会制度の積極的な活用」が26.6%、「市の審議会などへの女性の積極的な登用」が19.9%の順となっており、職場環境や社会環境における男女共同参画の一層の取り組みが求められている。また子育て世代では「男性向け家事・育児に関する講座の充実」を、また50代以上では「地域活動への女性の積極的な参画」を必要とする割合が高くなっている。